

科目名	生体力学						
科目名(英)	Biomechanics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	峰岡 哲哉		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	1. 運動力学の基礎を理解し説明できる。2. 運動の法則、剛体に働く力を説明できる。3. 人の運動を力学的に捉え、生体への力の作用を分析できる視点を持つ。4. 動作や介助について必要な力学を体験し説明できる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動力学の基礎を理解し説明できる。	
	○	○				運動の法則、剛体に働く力を説明できる。	
	○	○				人の運動を力学的に捉え、生体への力の作用を分析できる視点を持つ。	
	○	○				動作や介助について必要な力学を体験し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:プリントを配布します。参考文献:1)中島雅美 中島喜代彦 :PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート 医歯薬出版株式会社、2)物理のエッセンス 力学・波動 河合出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	運動力学の基礎① 生体力学とは… ・力学の単位			小テスト対策 授業ノート復習		
	2	運動力学の基礎② 力学の構成			小テスト対策 授業ノート復習		
	3	運動力学の基礎③ 力の合成と分解			小テスト対策 授業ノート復習		
	4	剛体に働く力① モーメント(トルク)			小テスト対策 授業ノート復習		
	5	剛体に働く力② てこの種類			小テスト対策 授業ノート復習		
	6	剛体に働く力③ 関節角度と力の関係			小テスト対策 授業ノート復習		
	7	運動の法則① 運動の3つの法則			小テスト対策 授業ノート復習		
	8	運動の法則② 重力加速度・落下運動			小テスト対策 授業ノート復習		
	9	運動の法則③ 質量・重量・力の単位			小テスト対策 授業ノート復習		
	10	仕事と力学的エネルギー			小テスト対策 授業ノート復習		
	11	床反力と関節モーメント①			小テスト対策 授業ノート復習		
	12	床反力と関節モーメント①			小テスト対策 授業ノート復習		
	13	演習問題①			小テスト対策 授業ノート復習		
	14	演習問題②			小テスト対策 授業ノート復習		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。定期試験 100(%)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	統計学									
科目名(英)										
単位数	2	時間数	30時間	担当者	黒木 宏一					
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○					
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年									
授業概要	リハビリテーションを科学的に理解し、実践したリハビリテーションを客観的に表現し、あるいは評価する場合、統計学の知識・手法が用いられる。本授業では、統計量や区間推定、統計的検定などについて演習を通じて学習し、統計学的な考え方を身に付けることを目標とする。									
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				統計データについて種類や特性について理解する				
			○			基本的統計について簡単な計算ができる				
				○		科学的な手法について興味を持つ				
テキスト・教材 参考図書	石村貞夫ほか(2015)『よくわかる統計学 看護医療データ編[第2版]』東京図書									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	統計学とは				本日の授業内容を復習してください				
	2	データの収集				本日の授業内容を復習してください				
	3	データのまとめ方(1):度数分布				本日の授業内容を復習してください				
	4	データのまとめ方(2):平均と標準偏差				本日の授業内容を復習してください				
	5	2変数のデータの関係(1):相関係数				本日の授業内容を復習してください				
	6	2変数のデータの関係(2):回帰直線				本日の授業内容を復習してください				
	7	クロス集計表の作成				本日の授業内容を復習してください				
	8	確率分布				本日の授業内容を復習してください				
	9	推定と検定の関係				本日の授業内容を復習してください				
	10	区間推定				本日の授業内容を復習してください				
	11	仮説検定(1):対応のある平均の差の検定・比率の差の検定				本日の授業内容を復習してください				
	12	仮説検定(2):平均の差の検定・比率の差の検定				本日の授業内容を復習してください				
	13	クロス集計表と独立性の検定				本日の授業内容を復習してください				
	14	まとめ①:基礎統計量、区間推定、統計的検定				本日の授業内容を復習してください				
15	まとめ②:基礎統計量、区間推定、統計的検定									
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記/実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記/実技)	○	○	○			70%			
	小テスト	○	○	○	○		30%			
履修上の注意										

科目名	コミュニケーション学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	高柳 希		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中にも発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する力を身につける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○						
	○						
	○	△					
目標	幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解することができる						
目標	“コミュニケーション”に関して自ら考え、物事を進めていくことができる						
目標	多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考することができる						
テキスト・教材 参考図書	宮原哲:新版 入門コミュニケーション論 松柏社 参考文献:末田清子・福田浩子:コミュニケーション学 松柏社 大森武子・大下静香・矢口みどり:仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版(株) 山口美和:PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コミュニケーション概論 コミュニケーションとは何か			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	2	コミュニケーション基礎① メッセージの種類			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	3	コミュニケーション基礎② ノイズの影響			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	4	コミュニケーション基礎③ 様々な能力			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	5	対人コミュニケーション① 会話のスタート			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	6	対人コミュニケーション② 立場と認識			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	7	対人コミュニケーション③ リスニング			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	8	対人コミュニケーション④ 質問と連想			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	9	個人内コミュニケーションと自己概念			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	10	報告・連絡・相談			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	11	対立処理			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	12	パブリックコミュニケーション			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	13	応用① 医療現場とコミュニケーション			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	14	応用② 自己とコミュニケーション			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
	15	まとめ			資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。		
評価方法	(1)授業の中で行動習熟度を確認する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	コミュニケーション行動習熟度	◎	◎	◎	○		20%
	レポート	◎	○				10%
履修上の注意							

科目名	解剖学演習						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	小川 皓一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	内臓の構造を機能と関連づけて説明できる。感覚器と神経系の構造を機能との関連で説明できる。骨の立体構造を説明できる。実験動物で内臓・筋・神経の構造を説明できる。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				感覚器の構造と名称を理解し、説明できる。	
	○	○				神経の解剖的構造を理解し、説明できる。	
	○	○				主な神経経路について理解し、説明できる。	
	○	○				演習により骨形態と組織について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	PT・OT・ST のための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店 あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献: ネット解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和(訳) 南江堂 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助(原著) 南山堂 入門組織学 牛木辰男著 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	内臓学演習①: 男性生殖系系 内臓学演習②: 女性生殖系系				課題プリントにて復習を行う。	
	2	内臓学演習③: 内分泌系 内臓学演習④: 人体の発生				課題プリントにて復習を行う。	
	3	感覚器系演習①: 皮膚・味覚器・嗅覚器 感覚器系演習②: 平衡・聴覚器				課題プリントにて復習を行う。	
	4	感覚器系演習③: 視覚器 神経解剖学演習①: 総論・髄膜・脳室系				課題プリントにて復習を行う。	
	5	神経解剖学演習②: 神経系の発生・脊髄 神経解剖学演習③: 脳(大脳)				課題プリントにて復習を行う。	
	6	神経解剖学演習④: 脳(間脳、中脳、橋) 神経解剖学演習⑤: 脳(延髄、小脳)				課題プリントにて復習を行う。	
	7	神経解剖学演習⑥: 脊髄神経(頸神経、腕神経叢、胸神経) 神経解剖学演習⑦: 脊髄神経(腰神経叢、仙骨神経叢)				課題プリントにて復習を行う。	
	8	神経解剖学演習⑧: 脳神経(第Ⅰ脳神経-第Ⅵ脳神経) 神経解剖学演習⑨: 脳神経(第Ⅶ脳神経-第Ⅻ脳神経)				課題プリントにて復習を行う。	
	9	神経解剖学演習⑩: 自律神経系(交感神経系、副交感神経系) 神経解剖学演習⑪: 伝導路(上行性伝導路)				課題プリントにて復習を行う。	
	10	神経解剖学演習⑫: 伝導路(下行性伝導路) 感覚器・神経系のまとめ				課題プリントにて復習を行う。	
	11	骨学演習①: 頭蓋・脊柱・胸郭を構成する骨				演習にて自己学習を進める	
	12	骨学演習②: 上肢の骨・下肢の骨				演習にて自己学習を進める	
	13	組織学演習				演習にて自己学習を進める	
	14	動物形態学演習				動物解剖より解剖理解を図る。	
15	肉眼解剖学実習						
評価方法	(1定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	身体解剖において、構造のイメージと名称の理解を自己学習において進めておくこと。						

科目名	生理学演習						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	坂口 博信 ・ 大津 隆一		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにするを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる	
	○	○				人体の各器官の正常な機能が説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	カラー図解 新しい人体の教科書 上・下巻 講談社ブルーバックス 参考文献: コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	中枢神経系1 中枢神経			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	2	中枢神経系2(運動機能の調節1)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	3	中枢神経系3(運動機能の調節2)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	4	中枢神経系4(学習・記憶)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	5	実習 誘発筋電図、神経の伝導速度			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	6	感覚1(視覚)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	7	感覚2(聴覚)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	8	感覚3(嗅覚・味覚)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	9	感覚4(体性感覚)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	10	実習 体性感覚(2点弁別・重量感覚)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	11	実習 体性感覚(触圧覚・温度感覚)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	12	実習 随意運動の反応時間(光・音刺激)			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	13	実習 脳波			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	14	実習 心電図			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	15	実習 呼吸量			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				50%
	小テスト		◎				50%
履修上の注意							

科目名	運動学						
科目名(英)							
単位数	4	時間数	60時間	担当者	齊藤 貴文		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	1.人体の構造(特に運動器:骨、筋、靭帯、神経など)を述べる事が出来る。 2.各関節の構造を述べる事が出来る。 3.各関節の正常な運動について述べる事が出来る。 4.各関節の運動を導く筋走行を述べる事が出来る。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				人体の構造(特に運動器:骨、筋、靭帯、神経など)を述べる事が出来る。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				各関節の構造を述べる事が出来る。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				各関節の正常な運動について述べる事が出来る。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				各関節の運動を導く筋走行を述べる事が出来る。	
テキスト・教材 参考図書	基礎運動学 第6版 中村隆一 齋藤 宏 長崎 浩 著 医歯薬出版、筋骨格系のキネシオロジー 嶋田智明 平田総一郎 著 医歯薬出版、肉単・骨単 河合良訓 原島広至 NTS 【参考文献】カバンジー機能解剖学 I. II. III 塩田悦仁 医歯薬出版、図解 関節運動器の機能解剖 上肢 J. CASTAING et all 協同医書出版、図解 関節運動器の機能解剖 下肢 J. CASTAING et all 協同医書出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 並進と回転、運動面、回転軸、自由度、OKCとCKC				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	2	関節の構造と機能 関節の構造と機能				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	3	筋の構造と機能(フィラメント滑走説、クロスブリッジサイクル) 筋収縮の超音波画像				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	4	肩複合体の解剖学 肩複合体の解剖学(描写から筋の作用をイメージする。)				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	5	肩甲胸郭関節の運動学(胸鎖関節・肩鎖関節) 肩甲上腕関節の安定化機構(肩甲胸郭関節のアライメント)				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	6	肩峰下空間、第2肩関節について 肩挙上筋のメカニズム(回旋筋腱板の作用)				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	7	肩甲上腕リズム 肩挙上筋のメカニズム(肩甲骨上方回旋時のフォースカップル・回旋筋腱板と三				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	8	腰椎骨盤リズム、腰椎と股関節の関係について 体軸骨格の運動学(椎体間関節、椎間関節)				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	9	股関節の運動学(描写から筋の作用をイメージする。) 股関節の生体力学(トレンデレンブルグ、デュシャンヌ跛行)				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	10	膝関節の運動学 膝関節の運動学(描写から筋の作用をイメージする。)				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	11	膝関節の運動学(筋解剖、半月板、十字靭帯作用、終末回旋運動) 膝関節の運動学(筋解剖、半月板、十字靭帯作用、終末回旋運動)				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	12	足関節の運動学 足関節の運動学(内側縦アーチ、ウィンドラス作用)				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	13	筋肉テスト 筋肉テスト				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
	14	総まとめ 総まとめ				復習ノートの作成、教科書熟読、肉単	
15	試験対策						
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				80%
	小テスト	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				20%
履修上の注意							

科目名	一般臨床医学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	山田 茂憲		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	医療現場において必要な、救命救急医療および外科、脳外科の総論について学習し、また各論において学習するもの以外の、皮膚科、泌尿器科、婦人科・産科、眼科、耳鼻 咽喉科、その他老年期医療における特殊な問題について幅広い知識を身につけることを目標とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことができる。	
	○	○		○		医学の歴史と体系を説明できる。	
	○	○		○		医療人として倫理観を持つことができる。	
	○	○		○		疾病の構造を説明できる。	
	○	○		○		診断の意義を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	「PT・OTのための一般臨床医学」 医歯薬出版(株)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	医学の歴史と体系1: 医学の起源、古代の医学				教科書の予習をしておく。	
	2	医学の歴史と体系2: 中世の医学、近世の医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	医学の歴史と体系3: 20世紀以降の医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	医学の歴史と体系4: 我が国における医学の発達のすがた				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	医学の倫理1: 医学概論で何を学ぶか、医学とは何か				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	医学の倫理2: 人間の生命を考える、病気と医学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	医学の倫理3: 医学とリハビリの実践のために、死への対応				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	生体の恒常性と健康: 健康・病気・医学の体系				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	疾病構造の変化と医学の変貌: 新しい医療システム				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	病気と診断学1: 病気の原因				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	病気と診断学2: 病気による身体の変化				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	病気と診断学3: 病気の診断				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	病気と治療学: 病気の治療とリハビリテーション				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	救急医療・疾病予防: 病気の予防				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical psychology						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	井上 慎司		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学・臨床心理学の基礎的な概念や理論を学ぶ。 ・心理アセスメントの基本的な前提、方法、解釈法について理解を深める。 ・性格とパーソナリティ、発達、発達段階の定義と分類について理解する。 ・心理臨床の基本的な想定、傾聴や受容など、心理療法に基礎ついで理解を深める。 						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		対象者への援助の方法やその実践について基礎的な知識・技法を説明できる。	
	○	○		○		臨床心理学の知識を臨床抱擁する為の方法を説明できる。	
	○	○		○		他者や自分自身の振り返る機械とし、自己認識した内容を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『心理学【カレッジ版】』 山村豊・高橋一公 医学書院 参考文献:川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 心とかかわる臨床心理[第3版]ナカニシヤ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	心理学とは何かー 心とは何か、対人援助と心理学、心理学の研究法				教科書の予習をしておく。	
	2	臨床心理学とは何かー 歴史				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	記憶ー 記憶のメカニズム、短期記憶と作業記憶				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	思考と知能ー 思考とは何か、知能とは何か、知能検査				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	学習ー 古典的条件づけ、オペラント条件づけと学習理論				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	動機づけー 感情とは、感情のメカニズム、動機づけの理論				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	性格ー 性格の理論、人格検査				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	発達①ー 各発達段階の捉え方、乳幼児期、児童期				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	発達②ー 青年期、成人期、アイデンティティ、中年期、高齢期				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	心理療法理論①ー 古典的精神分析療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	心理療法理論②ー 来談者中心療法など				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	心理臨床の基礎ー 心理臨床と臨床心理学、心の適応と不適応、精神疾患の分類				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	医療領域における心理的援助①ー 医療職と対人援助、対人援助の機能				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	医療領域における心理的援助②ー 患者の心理特性、医療従事者の心理				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	国家試験の過去問に目を通し、どの程度の心理学・臨床心理学的な知識が求められるのかをひとまず理解したうえで、医療従事者として、さらなる心理的援助を深めることが望ましい。						

科目名	評価学 I						
科目名(英)	Evaluation of Physical Therapy I						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	熊丸 真理		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年						
授業概要	①理学療法評価の項目と内容(意味)と必要性について述べ、各検査・測定項目について正確に実施することができるようになる。②測定結果よりその障害像について考察することができるようになる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				対象者の何を評価するのかを知り、理学療法評価の意味、理学療法プロセスの流れを理解する。	
	○	○	○	○		情報収集の目的と内容を知り医療面接ができるようになる。	
	○	○	○			バイタルサインの目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。	
	○	○	○			形態測定の目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。	
○	○	○			関節可動域測定の目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)潮見泰臈, 下田信明:リハビリテーション基礎評価学第1版. 羊土社, 2014. 参考文献:1)金子丑之助 他:日本人体解剖学(上巻)南山堂, 2003. 2)基礎運動学 第6版 齋藤 宏・中村隆一著 医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	評価総論① オリエンテーション 評価とは・・・検査・測定について考える			教科書の予習しておく。		
	2	評価総論② 検査・測定の意義・目的と評価の構成要素			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	生理機能評価(バイタルサイン)① 基本的知識と測定する意味を考える			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
	4	生理機能評価(バイタルサイン)② バイタルサインの測定方法と記録			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
	5	形態測定① 人を触るということ・骨の触察(ラウンドマークの確認)			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
	6	形態測定② 形態測定とは(形態測定の意義・目的・体格指数)			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
	7	形態測定③ 形態測定(四肢長)			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
	8	形態測定④ 形態測定(胸囲・腹囲・四肢周径)			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
	9	関節可動域測定 総論 (解剖学的知識、関節構造、運動学の知識の統合)			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
	10	関節可動域測定 ①			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
	11	関節可動域測定 ②			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
	12	関節可動域測定 ③			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
	13	関節可動域測定 ④			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
	14	関節可動域測定 ⑤			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめと実技練習しておく。		
15	まとめ			今までの総復習しておく。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記/実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記/実技)	◎	◎	◎			80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意	実技試験も定期試験に含む。						